

2024年5月9日

京都府知事 西脇 隆俊 殿
宮津市長 城崎 雅文 殿
与謝野町長 山添 藤真 殿

日本共産党京都府会議員団 団長 島田 敬子
同 宮津市会議員団 団長 小濃 孝之
同 与謝野町会議員団 団長 永島 洋視

宮津市制施行 70 周年記念事業におけるブルーインパルスの 展示飛行の中止を求める申し入れ

京都府、宮津市、与謝野町は自衛隊京都地方協力本部などと実行委員会を結成し、宮津市制施行 70 周年記念事業として、航空自衛隊ブルーインパルスによる展示飛行を計画している。

7月21日に宮津市の島崎公園周辺を主会場、与謝野町岩滝などをサブ会場として実施が予定されており、5月9日宮津市議会臨時会において実施のための補正予算が成立したが、展示飛行には多くの問題がある。

ブルーインパルスの展示飛行をめぐるのは、1982年、1991年、2000年にパイロットが死亡するような重大事故が起こっており、周辺住民が負傷する事態も引き起こしてきた。2021年の東京オリンピックの展示飛行では、演目を優先したために航空法で禁止されている雲に突入あるいは極度に接近する飛行をした疑いがもたれる事案も発生している。

そもそも、宮津市制施行 70 周年の記念事業にブルーインパルスを招致することに対して、市民から事業の主旨にそぐわないとして、招致反対の申し入れが行なわれていたにも関わらず、それらの意見は顧みられていない。

さらに、宮津市と京都府が連名で提出した自衛隊への要望書には、「ブルーインパルスが大きな話題となることは、自衛隊員の募集活動にも少なからず貢献できるものと考えております」と明記し、イベントを自衛隊の広報活動の場にしようとしていることも重大である。

また、本事業には 2500 万円の公費が投入されようとしているが、半分を宮津市が負担し、残りを京都府の「地域連携交付金」で賄うとしている。このような多額の公費を一日のイベントのために投入することに市民・府民の理解は到底得られない。加えて、「地域の特性を活かした」地域づくりをすすめるという交付金の主旨からも逸脱している。

よって、宮津市制施行 70 周年記念事業におけるブルーインパルスの展示飛行を中止するよう強く要請する。

以上